

2 第3次千葉県食育推進計画の次期計画への反映について

	委員意見	委員	回答	担当者
1	計画は良いが誰が現場で動くのか。県内にいろいろスキルを持った方々がいる。今まで以上のネットワークを活用して新たな発見が見つかるとうい。	今井委員	県段階で開催する食育ボランティア研修会や地域で開催する地域食育活動交換会等で、ボランティアの資質向上とネットワーク化を図ります。	安全農業推進課
2	コロナ禍だからこそ、食材や食事から免疫力をアピール(広報)が必要だと感じる。その反面コロナ太りといった肥満も重要な課題と感じる。	小松委員	特定の食品に偏らないバランスの良い食事を適量食べることが免疫力を高めることや肥満予防に大切です。現計画においてもグーパー食生活等を通じたバランスの良い食事の普及啓発をしているところですが、次期計画においても、引き続きバランスの良い食事の普及啓発に向けた取組を進めてまいります。	健康づくり支援課
3	地場産物を活用することは良いと思う。学校給食で千産千消デーを11月に1日行っているようだが、回数を増やしたらどうか。	佐藤(弘)委員	学校給食における地場産物の活用は、各学校、各地域の実情や栄養バランス等も考慮しながら進めていることから、地場産物の活用率も、年度や地域による差がある状況です。 今後も各市町村や各学校の理解を得ながら、この取組が充実するよう、意義、効果について周知してまいります。	学校安全保健課、
4	地域で食育を進める人材は減少傾向にあるように感じる。食育を進める人達が連携して出来る事業もあると思うので県民協議会が積極的に提案したらどうか。	高橋委員	食育を進める人達が連携して出来る事業については、県民協議会、地域食育推進会議等で検討してまいります。	安全農業推進課

	委員意見	委員	回答	担当者
5	超高齢化社会において、高齢者に適した食事、腸内細菌叢を崩さない食事、咀嚼、嚥下機能の維持などを加えたらどうか。	西牟田委員	特定の食品に偏らないバランスの良い食事が大切です。現計画においてもグーパー食生活等を通じたバランスの良い食事の普及啓発をしているところですが、次期計画においても、引き続きバランスの良い食事の普及啓発に向けた取組を進めてまいります。	健康づくり支援課
6	和食の存在感が失われつつある状況。 学校給食の場において和食の比率を増やしたらどうか。小・中学校給食を活用、高校においても調理実習(伝統的料理)を行ったり、年に一度和食弁当をデリバリーする予算をとる等学校教育の場を活用する。特に高校において、幼小で食育しても中高でつなげていかなければ忘れてしまう。自分で買い物ができるようになってからが大切。	松田委員	<p>県教育委員会では、毎年11月に「千産千消デー」を設け、学校給食に郷土料理を取り入れて、地域の食文化等に関する指導の充実を図っております。</p> <p>今後も、栄養教諭及び学校栄養職員等を対象とした研修会において、郷土料理を生かした献立の情報交換を行うなどして、季節感のあるおいしい給食を提供し、和食のすばらしさについて、子供たちがより一層理解を深めるよう努めてまいります。</p> <p>高等学校については、高校生向け食育リーフレットを活用し、自分に必要なエネルギー量の算出を自ら行うことができるようにするなど、食生活の自立にむけての取組や、第3次千葉県食育推進計画において、高等学校における食に関する指導が教育活動全体を通じて計画的、組織的に行われるために、食に関する指導の全体計画の作成を推進しております。</p>	学校安全保健課、
7	安全農業の取組について、かなり具体的な取組が進んでいるという印象を受けた。コロナ禍における集合形式のプログラムについてまだ制約が予想されるが、オンラインを活用した取組の一層の進化を期待している。	眞鍋委員	計画本文の記載において検討してまいります。	安全農業推進課、 学校安全保健課

	委員意見	委員	回答	担当者
	同様に学校安全保健課の取組についても現在進んでいるGIGAスクール構想の流れの中で、学校におけるオンラインによる教育環境がかなり改善されてきている状況を踏まえ、オンラインによる食育推進のプログラムも検討していただきたい。			
8	食環境の整備は県などの大きな自治体でなければできないことが多いので、外食や中食での栄養成分表示の活用や環境に配慮した食品等についての普及啓発に取り組んでほしい。	星野委員	現計画においても、外食や中食を活用しながら健康に配慮した食事ができるよう、県民向けに栄養成分表示の活用等普及啓発を行うとともに、野菜や減塩に配慮したメニューやサービスを提供する飲食店等を健康ちば協力店として登録する取組などを行っているところですが、次期計画においても、引き続き食環境整備の取組を進めてまいります。	健康づくり支援課、安全農業推進課

【 意見等 】

- ・食育を絡めて千葉県を「〇〇県」にする食育運動を起こす。(明石委員)
- ・食育を通して「健康寿命日本一」を目指す。(明石委員)
- ・千葉県を「縄文文化」の発信基地にする。(明石委員)
- ・新たな郷土料理の開発や認証が必要。歴史や伝統は時代が作り上げていくもの。(小松委員)
- ・「親子料理コンテスト」や「いきいきちばっ子オリジナル弁当コンクール」は家庭内で食育を考えるきっかけになっていると思う。「千産千消デー」は、児童・生徒にとり地域の食材のよさを実感し、食育への関心を高めるよい機会であると思う。(庄司委員)
- ・いろいろな方面から食育サポートができれば良い。千葉の美味しいものが産地地元で活発に食べられるようになり、他地域に伝えていければ良い。(知久委員)
- ・食育を推進していくためには、若い世代を中心に「食」に対する興味をもってもらうことが重要。そのために研修会や料理教室など消費者参加型のイベント開催など積極的に実施していくとともに若者の情報減である「SNS」の積極活用を検討したい。(鶴岡委員)
- ・家族が食卓を囲んで共に食事をとることは、家族のコミュニケーションを図るうえでも重要だが、家庭環境の変化から核家族で共働き世帯が多く難しくなっている。少なくとも休日の食事を家族と共にとりながら、コミュニケーションを図るよう提案する。(鶴岡委員)
- ・子ども食堂の積極的な支援、施設利用していない要介護の独居高齢者の食事等の支援強化が必要。(西牟田委員)
- ・ボランティアを単に増やしても活躍の場がないとモチベーションを維持できないように思う。せつかくやる気を持ってボランティアになろうとしてくれた人が活動を続けられるように育成で終わりではなく、活躍の場の確保の目途もある程度つけたうえで養成してほしい。(星野委員)

- ・栄養成分は裏側に小さく書かれていることが多い。企業と連携してパッケージの改良が必要。(松田委員)
- ・「食べる楽しさや喜びを生涯続けるために、健康であることは重要。そのためにはバランスの良い食事を理解し、体重をある程度の範囲で維持するように心がけることが役立ちます」基本的な事項としてこれを反映する。(渡邊委員)